

カルメル

霊性センターニュース



2025 年 1 1 月

4 2 4 号

目次

目次	1
心の泉	2
カルメル会の企画案内	24
東京	25
京都	27
名古屋	29
諸所の企画案内	30
通信深読お申込みのご案内	34
霊性センターニュース郵送終了のお知らせ	35
あとがき	36

心の泉



宇治カルメル会修道院(十字架の道行き)



第四巻 聖体拝領への信心の勧めはここにはじまる

第十二章 聖体拝領をする人は、特に一心に準備をしなければならない

1 主

《「私は純潔を愛する者、聖性を与える者である。私は清い心を求め、そこに休息する。「美しく飾られた広間」(マルコ 14・15、ルカ 22・12)を私に準備しなさい。私はそこで、弟子と共に過越を祝う。私があなたのもとに行って、とどまってほしいなら、「古いパン種を取り除き」(一コリント 5・7)、心の住まいを清めなさい。あなただの心から世俗のにおいと悪の乱れを一掃し、^{いっそう}「屋根の上の孤独な雀のように」(詩編 102・8)とどまり、自分の罪を悔い改めなさい。愛する者は、愛する相手のために、もっとも美しく飾った部屋を準備する。それによって、愛する相手をもてなす愛情の度合いがわかるのである。

2 できることを全部しなさい

しかし忘れないでほしい。たとえ一年間かけて準備をし、頭のなかで気を散らすことがなくても、あなた自身の力だけでは、十分に準備できないことを悟りなさい。あなたが私の食卓に近寄れるのは、ただ私のあわれみと恵みによるのである。ちょうど物乞いが金持ちの宴会に招かれ、その恩を返そうとしても、ただへりくだって感謝する以外に方法がないのと同様である。

あなたは、自分でできるかぎりのことをしなさい。習慣や嫌々ながらするのはなく、あなたのところまでへりくだる愛する主なる神のおんからだを、おそれと尊敬と愛をもって拝領しなさい。あなたを招いたのは私である。これをするようにと命じたのは私である。私はあなたの不足を補おう。来て、私を受けなさい。

3 絶え間なく頼みなさい

私があなたに敬虔の恵みを与える時には、神に感謝しなさい。その賜物が与えられたのは、あなたがそれにふさわしいからでなく、「私があなたをあわれんだからである」(マタイ 18・33)。もし熱意がなく、心が乾いていると感じる時には祈り続け、嘆きながら「門をたたきなさい」(マタイ 7・7)。救いの恵みの一片一滴でも受けるまでは、たたき続けなさい。私があなたを必要とするのではなく、あなたが私を必要とするのである。あなたが私を聖とするために来るのではなく、私があなたを聖とし、よりよくするためにそばに行くのである。あなたが来るのは、私に聖とされ、私と一致することによって、新しい恵みを受け、新たな熱心さを取り戻し、生き方を改めるためである。「この恵みがないがしろにしてはならない」(一テモテ 4・14)。いつも熱心に心を準備し、愛する者を迎え入れなさい。

4 信心を保ちなさい

聖体拝領をする前に熱心に準備をするだけでなく、聖体拝領後にも、その心を保ち続けなければならない。拝領前に熱心なら、拝領後もそれに劣らぬほど熱心でなければならぬ。聖体拝領後に神への熱心な祈りを保つことは、より豊かな恵みを受けるための適切な準備となる。外部のことにすぐ心を散らす者は、この恵みを失う。

私語を慎みなさい。心静かに、神を味わいなさい。全世界も奪うことができないものをあなたはもっている。あなたがすべてを与えなければならないのは、この私である。あなたは今後、ほかの心配を忘れ、自分のためではなく、ただ私のために生きるであろう。》



教皇フランシスコの帰天から、すでに半年が過ぎました。その後しばらくして「教皇の最後の手紙」と称する文章がインターネット上で広まりました。結局のところ、それが教皇ご本人によるものではないという見方がありますが、次のような言葉が記されていました。

「…毎日、顔を洗い、身だしなみを整え、鏡の前に立って生きてきました。その姿が「私」だと信じていました。しかし、ふり返れば、それはただの、一時的にまとう衣でした…結局この身体は、私の願いに関わらず、太り、病み、老い、そして、静かに私から離れていきます。この世で本当に『私のもの』と呼べるものは、一つもありません。」

実際、教皇は2022年6月に遺言を残しており、その中で触れられていたのはご自身の埋葬についてのみでした。「亡骸はサンタ・マリア・マッジョーレ大聖堂に葬られるということ。」この事実は広く知られていますが、その選択には深い意味が込められていました。

「わたしの最後の旅がまさにこの古代の聖母巡礼聖堂で終わることを希望する。わたしはこの大聖堂にすべての司牧訪問の始めと終わりに祈りのために訪れ、自らの意向を信頼をもって無原罪の聖母に託し、その従順な、母なる配慮に感謝してきた。」

(パチカンニュースより)

それから2年後——復活の月曜日に、教皇フランシスコは静かに永遠のいのちへと旅立たれました。この日は復活した主イエスが聖母マリアに最初に姿を現された日とされています。まさにその日に、聖母を深く慕い、信頼し続けた教皇が召されたことは、神の摂理を思わずにはいられません。教皇の「希望の巡礼者」としての巡礼は、聖母への信頼と希望のうちに、その大聖堂で静かに完成したのです。

紅葉に彩られた11月は、教会の典礼では死者の月。私たちは死んだ人に思いを馳せ、その方々のために祈る月として過ごしてきました。ですが、フランシスコ教皇の生き方を思い起こすと、祈るとともに、日々の生活そのものを祈りとして生きるこの意味を教えられます。教皇は貧しい人々、存在を無視されて来た人々と共に、ご自身も罪を負う者としてのへりくだりと、神の赦しのうちに自由を生きようとした方でした。



私たちもこの死者の月を、亡くなった方々のために祈るとともに、日々の生活の中で希望とゆるしを生きる巡礼者として歩みたいと思います。典礼年も11月30日より新しい年を迎えます。旅路の最後を歴代の教皇たちが眠る場所ではなく、貧しい者として質素に葬られることを願ったフランシスコ教皇のように希望をもって神の前で自由に生きるものとして、最後まで聖母に導かれながら、日々の生活を希望の巡礼者として、聖テレーズの信頼の道を歩み続けることができますように。

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートル・ダム・ド・ヴィ

フランシスコ教皇の言葉⑱

死者たちの思い出と、未来への希望を心に刻みましょう。

戦争の犠牲者が一人もいなくなるように、神に平和を願いましょう。

死者たちの思い出は、未来を築く土台とならなくてはならないでしょう。「故き^{ふる}を
^{たず}温ねて新しきを知る」ではありませんが、死者のことは忘れされるべきではないの
です。私たちが明日の創造的な一步を踏み出すために、彼らの存在、彼らの言葉と
行いは、大きな意味を持っているからです。ローマカトリック教会には列福列聖の
制度があります。何百年前、一千年前、二千年前の聖人聖女が、キリスト者として、
人間として、どのように語り、振る舞うべきかを、現代の私たちに今もなお教諭
してくれるのです。

けれども、一握りの聖人聖女だけでなく、無数の名もない普通の人々の思い出も
忘れ去られてはならないでしょう。特に、歴史の中で絶えず繰り返される戦争や迫
害の数えられないほどの数の犠牲者たちの死も思い出されなくてはなりません。私
たちがこれからどのように私たちの政治や経済をとらえ、戦争の犠牲者がひとりも
いなくなるような平和な世界を築いていくかを考えるうえで、彼らの死は、大きな
教訓となるからです。人間のエゴ、傲慢が自然を破壊し、気候変動を引き起こし、
飢饉や富の不均衡をもたらし、紛争や戦争を勃発させています。フランシスコ教皇
が『ラウダート・シ』で提唱されたインテグラル・エコロジーを、今こそ実現して
いくべきでしょう。 (P. 九里)

P.S. 「フランシスコ教皇の言葉」(①～⑱)は、カルメル会のHPの「霊性センターニ
ュース」に掲載されています。「霊性センターニュース」とクリックしてください。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（206）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

こぼれ話シリーズの導入(3)

（聖テレジアのシルベリオ神父は、十字架のヨハネに対して人々が抱いていた考えを再構築しました。）「ホアン・デ・イエペス（訳注：ヨハネの俗名）は、——大衆やその他多くの人々の見解によれば——肝臓で絶えず分泌される胆汁の神秘的な作用によって絶えず強く引き締められた眉間のしわである。…ホアン・デ・ラ・クルス（十字架のヨハネ）は、11月の灰色の寒々とした日々に見る初冬のヒノキのような存在である。終末論的な預言者として、挑発的な姿勢で人類に手を差し伸べ、逃避的な喜びの道と永遠の苦しみへの道を指し示している。…そして、禁欲主義者の骨ばった人差し指で、永遠の命へと続く、乾ききった狭く困難な道を指し示している」。

黒い伝説の問題に関して言えば、十数年前、ある総合的な研究・文化誌において、哲学・文学博士であり、マドリッドのコンプルテンセ大学スペイン文学部の教授が、十字架の聖ヨハネの書簡について論評する中で、彼の中に「本質的にマゾヒズム的な」態度や「神経症的で非人間的な感情」や「病的境界線にある、何もかも放棄していく能力」や「反生命的な態度」といった特徴を見出しています。

そして最悪なのは、これらすべてを踏まえた上で、こう書いていることです。：「ホアン・デ・イエペスは、別の歴史的・政治的状况下であれば革命家となり得たかもしれない。同様に、彼の時代と状況においては聖人となったのだ——ただし、生涯を通じて教会から迫害を受けた事実を忘れてはならない」。これは暗闇の中で書くことに他なりません。非人間的で、マゾヒスト的で、反生命的な聖人とは、いったいどんな聖人なのでしょうか？確かに、ホアン・デ・ラ・クルスではありません。そして、そんな人間とは、いったいどんな人間なのでしょうか？それは、ホアン・デ・イエペスという人間でもありません。（続く）

P. 九里 訳

死者の日〈すべての魂の日〉

(ヨハネ 6 : 37 - 40)

死者の日は、私たちより前にこの世を去り、今は煉獄にいる人たちのために特別に決められた日です。私たちは今日、自分自身の愛する祖先や、両親、親戚、恩人、友人たち、そして全ての信仰深い死者のために祈ります。教会はこの日だけではなく、特別な方法で11月中、別れた信仰深い人を思い出します。11月1日は、全ての聖人の日で、天国にいる全ての聖人、知っている聖人も知らない聖人も全ての聖人をお祝いします。

「父がわたしにお与えになる人は皆、わたしのところに来る。わたしのもとに来る人を、わたしは決して追い出さない」(ヨハネ 5 : 37) と福音書にあります。これは、イエス様の最も強い励ましの言葉です。人々をイエス様に引き寄せる御父の役割と、イエス様はご自分のところに来る人達をまちがいなく受け入れてくださるという関係性を強調しています。これは、神に選ばれた人はキリストに引き寄せられ、キリストをさがす人はその関係性を見出すという考えの最高点です。イエス様は、イエス様に近づく人を誰でも受け入れ、愛してくださいます。イエス様との関係を求める人を過去や現在の環境がどうであっても拒まれることはありません。これは信じる者にとっての希望と確信の大きなメッセージです。

わたしたちはまた福音書の中で「わたしをお遣わしになった方のみ心は、わたしに与えてくださった人を一人も失うことはない。終わりの日に復活させることである。」とのみ言葉を読みます。わたしたちの救いはイエス様を通して保障されていて、永遠の命に上げられ、失われることがない御父のみ旨の完成はイエス様に委ねられているのです。これは、復活の約束であり、信者たちが死者から上げられ神との永遠の生命を体験する未来の出来事です。

「死者の日〈すべての魂の日〉」を祝う今日、復活と、再会、そしてキリストによって約束されている永遠の喜びを、楽しみに待ちましょう。

(Sr. Paulina)

ラテラノ教会の献堂

(ヨハネ2：13－22)

今日の主日は、本来は年間第32主日にあたるのですが、11月9日ラテラノ教会の献堂の祝日と重なり、全世界のローマ典礼の教会で祝われるようになったペトロの座に対する一致と親愛のしるしであり、今年はこちらを優先して主日にお祝いします。

今日の福音ですが、ユダヤ人の過越祭が近づいたため、イエスがエルサレムへ上って行かれた際の出来事で、祈りの家である教会、ラテラノ教会の献堂の日に相応しい聖書箇所として、ユダヤ教の神殿でイエスが行われた事柄が選ばれています。

イエスは神殿の境内で牛や羊や鳩を売っている者たち、両替をしている人に対して、彼らの羊や牛をすべて境内から追い出し、さらに両替人の金をまき散らすなどの行動をとられました。でも彼らが神殿でその様な仕事をしていたのは、いけにえに捧げるため動物を家から連れて来るのが難しかったり、普段の生活で使っているお金を、そのまま神殿で使うことができないため、両替をして人々の便宜を図っていたためなのですが、イエスは「わたしの父の家を商売の家としてはならない」と叫んでそうなさったのです。

これには当事者も周りで見っていた人も驚き、イエスに食って掛かったのも当然なことでしょうか。そのような中で「この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。」と言われ、御自分の体が復活するということを暗示して人々にその様に言われました。

人となられた神の子イエス。まことの神であり、まことの人であるお方が、私たちの罪の贖いのために十字架につけられて亡くなられ、3日目に死者の中から復活なさって天に昇られ父なる神の右の座についておられる……。そのような中で、信じて洗礼を受けることで私たちの罪（原罪）が赦されて、私たちは神の子とされて歩んでいます。この偉大な神秘と恵みをあらためて心に思い起こしながら、ローマのラテラン教会堂が建てられた記念を祝い、ペトロの座、教皇と一致してこれからも歩んで参りましょう。

私たち一人一人も神の霊がおられる場、自身のうちに神殿があると言えるでしょうか。私たちとともにおられる神、父と子と聖霊の三位一体の神に心を向けて歩みましょう。私たちが生活の中で神と出会い、信仰を深めながら、歩んでゆくことができますように。

神の恵みと祝福がいつも豊かにありますように。

(Fr. 古川利雅)

年間 第33主日 (C)

(ルカ 21 : 5 - 19)

「忍耐によって、あなたがたは命を勝ち取りなさい」

本日の福音箇所は次の言葉で締めくくられています。「忍耐によって、あなたがたは命を勝ち取りなさい」。私たちの忍耐は日々試されます。子供たちは親の忍耐を、生徒たちは教師の忍耐を試します。個人的な悲劇や失敗、失望、死は、私たちの忍耐力への厳しい試練です。それでもイエスはこう約束されます。「忍耐によって、あなたがたは命を勝ち取りなさい」。イエスは、苦しみ自体に意味があるのではなく、苦しみが勝利といのちへの道であることをご存知なのです。

私たちが恐れる多くの疑問のうち、最も重要な問題の一つが世の終わりです。人々はその時期やしるしを知りたいがります。イエスがエルサレムの神殿の破壊を予言された時、ユダヤ人にとってそれは世の終わりに匹敵する出来事でしたので、さらに詳しい説明を求めました。イエスは数々の災厄や大惨事をしるしとして挙げられました。地震、疫病、飢饉、戦争、迫害等です。これら全てが民を苦しめるものの、終末はまだ先なので、イエスの名を使って人々を惑わす偽預言者たちについて「気をつけよ、惑わされるな。これらは全部過ぎ去る」とイエスは注意喚起します。

本日の福音では、イエスは二つのことを教えられます。一つ目は、世の終わりは自然現象や災厄から推測できないことです。二つ目は、人が抱える必要、問題、そして苦しみは日々の生活の一部であることです。神は、私たちがこれらの問題に忍耐をもって向き合う必要があると教えています。愛を込めた小さな忍耐をもって、私たちは家庭、共同体、社会に平和と理解をもたらすのです。私たちは絶えず善を行い続けなければなりません。なぜなら、忍耐によってのみ、私たちは命を勝ち取ることができるからです。大切なのは、いついかなる時にも備えていられるように、神と人々との忠実で愛に満ちた関係の中で成長し続けることです。

忍耐の徳を育むために、日々祈りましょう。

(Sr. Paulina)

待降節 第1主日

(マタイ24：37－44)

教会の暦も新たな年となり、主の降誕を待ち望む季節を迎えて歩む頃となりました。今日の福音は、始まりに相応しく文字通り「待つ」ということについて語られています。イエスは、「目を覚ましていなさい」「あなたがたには分からないから」と言われます。それは、いつの日、私たちの主が帰って来られるのか、私たちには分からないからです。

イエスは初めにノアの箱舟のお話をされました。創世記の最初の方の箱舟の話ですが、地上に悪がはびこった時、神は世界を滅ぼそうとされますが、正しい人ノアとその家族、1つがいの動物達を舟に乗せて生かして下さった話ですね。神からの洪水が来る日まで、人々は放縱の生活をしていましたが、その日ノアたちは舟に乗り、他の人びとは洪水で滅びました。洪水が来るとわかっていたら、彼らは生き方を変えたのかも知れません。

人の子がいつ来られるのか、イエスがいつ再び来られるのかがわからなくても待ち、待ちながら歩む。待ちつつ用意しつつ生きる、その様に歩んでゆければ良いでしょうか。何よりもイエスご自身が、神が私たちのその様な姿を望んでおられるのですから。

私たちは先週の日曜には、王たるキリスト、年間の最後の主日をともに祝いました。そして主が再び来られることを想い、その余韻の中で、私たちは主の降誕を待ち望む、待降節の歩みを歩み始めています。

待降節の歩みは、単に「まだ来ないかな～」 「早く来ないかな～」と受身で歩む歩みではありません。来て欲しいと来られる方のことを想いながら、積極的に待つ歩みです。その様に歩んでゆく中で、クリスマス、主のご降誕をお迎えすることができるならば、お生まれになるイエス様への何よりのプレゼント、心からの贈り物になるのでしょうか。

クリスマスに向け歩みつつも、いつか来られる、やがて来られる、イエス様の再臨に想いを馳せ歩んでゆくならば、いつ来られたとしても、準備を整えてお迎えできる中で歩むことができるでしょう。心からの喜びのうちにお迎えすることができるでしょう。私たちがイエスの言葉に耳を傾け、相応しく待降節を歩んでゆくことができます様に。

(Fr. 古川利雅)

王であるキリスト C (2025年11月23日)

(ルカ23 : 35-43)

【み言葉を読む】

〔そのとき、議員たちはイエスを〕あざ笑って言った。「他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい。」兵士たちもイエスに近寄り、酸いぶどう酒を突きつけながら侮辱して、言った。「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。」イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王」と書いた札も掲げてあった。

十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」すると、もう一人の方がたしなめた。

「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」そして、「イエスよ、あなたの御国においてになるときには、わたしを思い出してください」と言った。するとイエスは、「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。

【み言葉を黙想する】

ルカ福音書の『王であるキリスト』を示すみ言葉となります。その個所は十字架上のイエス・キリストへの招きです。「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」というイエス・キリストの言葉です。

カトリック教会は2025年典礼暦の最後の日曜日にこの『王であるキリスト』でお祝いしますが、次の日曜日から2026年の典礼に入り、待降節に入ります。2025年典礼の最後に、ルカ福音書ではキリストの十字架物語はふさわしい個所でしょう。なぜならば、ルカ福音書はこの十字架と復活を、「新たな脱出」と位置付けているからです。古い時代から脱出し、復活という新しい時代が訪れるターニングポイントが十字架です。イエス・キリストが救い主であり、新しい神の国の「御主」と仰ぎ信じ、希望する人には、キリスト共に新しい国において復活することを意味しています。

しかし、十字架のイエスを前にして、神の用意してくださる新しい国を受け入れない人、それを亡き者にしようとする人が傍らにいますし、それに対して自分の人生を罪びととして自覚して終える人にとって最終的な救いの啓示であるキリストを罪びとの“救い主”として受け入れる人の救いについて述べられているところです。

私たちの人生の終わりにも、キリストを救い主として信じ希望するか、信仰を失い新しい国への復活を望まないかの自由を各自にゆだねています。各自の自由を尊重する神の計らいです。

この世においても、新しい時代に向かってキリストを救い主、御主として生きることを望むか、この世の中で自分勝手に生きるかの選択も私たちの自由意志にかかっています。そういう意味で、キリストの十字架は「審判」の時でもあります。世の終わりまで十字架は立ち続きます。

さて、教会の中でも典礼が更新されます。新しい時代の典礼に生きる教会と共に生きることを望むか、教会の典礼は後に回して自分の都合を優先にして生きることを望むかも、私たちの自由です。しかし、教会は信仰をもって共に新しい典礼に参加して歩みましょうと呼び掛けています。これもシノダリティの教会です。

また、本日は「世界青年の日」です。前教皇フランシスコの青年の召命の祈りを載せましょう。

収穫の主よ、

若者たちが、あなたの呼びかけに応えるために、

勇気の賜物をもって祝福してください。

そして、偉大な理想、最高のものに、彼らの心を開いてください。

信仰をもつ人々の豊かな土地に召命の花を咲かすために、

すべての弟子たちに相互愛の奉仕精神を吹き込んでください。

また、信仰生活を行っている人々の中で、すなわち他者を魅惑する信頼と恵みを伴って小教区奉仕に従事している人々、家庭奉仕に従事している人々の中で、あなたに捧げる大胆で崇高な聖別奉獻の道を受け入れるように教え導いてください。

祈りと秘跡を通して、わたしたちをあなたの子イエスに結びつけ、

憐れみと真実、そして正義と平和の国を、あなたと共に協力して造ることが出来ますように。 *アーメン。*

(Fr. 松田浩一)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2025年8月5日

オーストラリアの跣足カルメル在世会が リジューの聖テレーズ 列聖記念を祝う



オーストラリア、メルボルンの跣足カルメル在世会は、リジューの聖テレーズの列聖100周年を記念し、聖テレーズの生涯と霊性を紹介する展覧会「すべての人々のための聖性」を開催しました。展覧会はメルボルンの聖パトリック大聖堂で、2024年10月1日から11月4日まで開催され、2025年に5月10日から5月27日まで再び開催されました。大聖堂の主任司祭スチュワート・ホール神父は、跣足カルメル在世会の会員たちやその他の訪問者たちとともに、聖テレーズの列聖を記念する旗の周りを移動しながら祈りを捧げる、美しい典礼で展覧会を

開始しました。2025年5月18日には、レネ・ラミレス司教（RCJ）が、大聖堂で列聖100周年記念ミサを捧げ、聖テレーズに関する感動的な説教をしました。

この展覧会は予想を上回る成果を収めました。聖テレーズに関する祈りのカード約7000枚が配布され、跣足カルメル修道士・修道女・在世会 会員に関するパンフレット数百部と共に、聖テレーズに関する書籍が約300冊販売されました。

開催期間中、跣足カルメル在世会の会員は毎日展覧会に常駐し、多くの来場者の質問に応じ、信仰に関する話題を来場者と話し合い、祈りの依頼に対応する大切な役目を果たしました。また多くの人々が、展示されていた聖テレーズと、両親 聖ゼリーと聖ルイ・マルタンの聖遺物の前で祈りを捧げることができ、大変喜んでいました。この展覧会の取り組みがこれからも多くの実を結んでいくよう、願っています。

（訳：小宮山延子）



いのちの言葉 11月

平和を実現する人々は、幸いである、

その人たちは神の子と呼ばれる。¹

(マタイによる福音書 5・9)

1

最近、イタリアの3つの大学が合同で行った調査によると、この1年間で100万件以上の悪質メールがネット上に投稿され、外国人やユダヤ人に対する中傷、また特に女性に対する投稿がますます暴力的になっていることが報告されています。

むろん、同様の現象が至る所で起きているとは言えませんが、多くの人が家庭、職場、スポーツジムなどで、何らかの形で争いや対立、侮辱的な態度に出会う経験をしており、こうした現実は日常生活における社会的共存を危うくするものだと言われている。さらに、よりグローバルなレベルでは、現在、地球上56ヶ所で武力紛争があり、その数は第二次世界大戦以来最多となり、非常に多くの民間人が犠牲になっているとの報告もあります。

こうした状況の中で、イエスの次の言葉は私たちにとってこれまで以上に衝撃的であり、強く心に響きます。

平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。

「どの国の人も、平和、調和、一致を強く望んでいます。しかしながら、そのための多くの努力や善意にもかかわらず、人類は2千年の歴史を重ねた今も、安定した継続的な平和を築くことができません。イエスは地上に来られ、私たちに平和をもたらしてくださいました。しかしイエスご自身、はっきりと、それは『世が与える平和』²ではないと言われました。単に、戦争や争い、分裂や傷跡のない状態を指すものではないからです。『イエスの平和』はそれをはるかに超えるものです。溢れるいのちと喜び、自由、人間の尊厳があらゆる面で尊重されること、あらゆる国の人が皆、愛の内に兄弟姉妹として生きることを意味するからです。」(キアラ・ルービック、いのちの言葉2004年1月より抜粋)

今月のみ言葉は、山上の説教の冒頭に記された「真福八端」の七番目にくるものです。(マタイ 5・7)。「真福八端」、生涯を通して自らそれを体現されたイエスが弟子たちに教えを説かれました。ところで、ここでは「真福八端」がすべて複数形で語られていることに気づきます。このことから「真福八端」は個人の態度や美德というよりも、むしろ、共同体の中で実現されるべき共同体的倫理であると言えるでしょう。

平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。

ここでわたしたちは自問したいと思います。「『平和を実現する人々』とは、いった

い誰のことですか？」と。『真福八端』の七番目の教えは、最も行動的です。明らかに活動的です。その表現は、聖書の創世記の第一節と同様、創意と熱心な働きを示しています。愛は本来創造的なものです。……そして、いかなる犠牲を払っても、和解を探し求めます。平和の築き方を学び、それを実行するようにと神の子らは召されています。彼らは、自分の人生を捧げずして和解はないと、そして平和をいつ、いかなる場合でも追求しなければならないと知っている人たちです。これは自分の能力の結果として得られる業ではありません。それは、わたしたちを神の子らとしてくださった方、わたしたちの平和であるキリストから受け取った恵みの現れなのです。」(教皇フランシスコ、山上の説教について、2020年4月15日一般謁見での講和より抜粋)

平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。

では、このみ言葉をどのように生きたらよいのでしょうか？まず何よりも、本物の愛をあらゆる場所に浸透させていくことでしょう。そして、もし私たちの周りで平和が脅かされるようなことがあれば、思慮深く介入することができるでしょう。時には、反対意見を持つ人々の話を最後まで愛をもって聞くだけで、少しずつ解決の糸口が見えてくることもあります。

しばしば、ほんの小さなことから関係が壊れたりするものです。しかしそれを放置しないで関係が修復されるまで諦めないことです。さらに平和への意識を高めるために、例えば、所属する団体、教会、教区の中で工夫して何かができるかも知れません。世界の各地では、大小さまざまな方法で、平和を築いていくための取り組みが行われています。平和行進や平和コンサート、平和会議、又さらにボランティア活動も平和を築いていくための具体的な流れを生み出しています。その他「リビング・ピース」³のような平和教育のプログラムもあり、現在、世界中で2600以上の学校や団体がこのプロジェクトに参加し、5大陸で200万人以上の子どもたち、若者、大人がその活動に参加しています。その中の一つにキアラ・ルービックが提唱した「愛の芸術」⁴にヒントを得た「平和のサイコロ」があります。サイコロを振ると、その各面に平和を築くためのキャッチフレーズが書かれており、そこからイニシアティブも生まれています。最後になりますが毎日、正午12時には「タイムアウト」と呼ばれる平和のための黙祷が世界中で捧げられています。

アウグスト・パロディ・レイエスと「いのちの言葉」編纂チーム

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

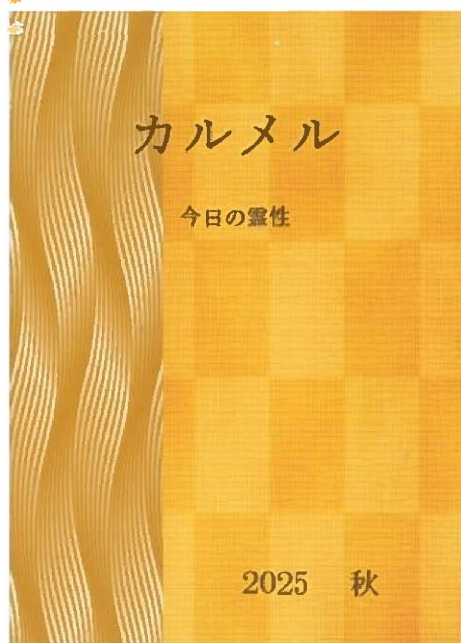
E-mail: tokyofocfem@gmail.com ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

¹ 日本聖書協会「新共同訳」

² ヨハネ 14・7 参照

³ <http://livingpeaceinternational.org>

⁴ キアラ・ルービック著「愛の芸術」チッタノーバ社、ローマ 2005



2025年 秋号 No.398

《希望は欺かない—2025年通堂聖年の中で—(3)》
神の愛に希望を置く

—十字架の聖ヨハネの教え(1) 松田浩一

カルメルの外のカルメル

—教会の外から見られたアビラの聖テレジアと
十字架の聖ヨハネ(11) 鶴岡賀雄

この道はいつか来た道

—日々神との親しさに呼ばれて 伊従信子

教皇フランシスコ様

「我らが愛する教皇」 ポーリン・フェルナンデス

風に吹かれて再び(13)—塩、この不思議

原 造

霊的研究会講義録(29)—聖書・祈り・愛について

奥村一郎



2025年 四旬節特集号

「聖年に祈る」

「希望の巡礼者となるために」

絶望の体験から

—二人のテレジアの霊的起点 中川 博道

イエスのみこころと全人類

—巡礼、シノドス、ニカヤ公会議、新回勅
の連続性

サレジオ会 阿部 仲麻呂

レビ記、神の励ましの声を聞く

志村 武

信仰生活の再構築

和田 誠

ご案内

1冊 580円 A5サイズ 50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、1冊 580円(+送料 140円)を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特別号 計3,600円)を
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

新刊紹介

聖マリアとともにイエスのいのちを生きた ニコラオ・プレシエル神父の講話 II ロザリオの祈り



Chrysostomus
小野崎良子 編

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

教友社定価 (1,500円＋税)

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です(教会憲章 53 番)。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神祕をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださいました。

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きた
ニコラオ・プレシエル神父の講話 II

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円 (税込)

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」(「はじめに」より)。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師(カルメル会)推薦。

小野崎 良子(おのざき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていくます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

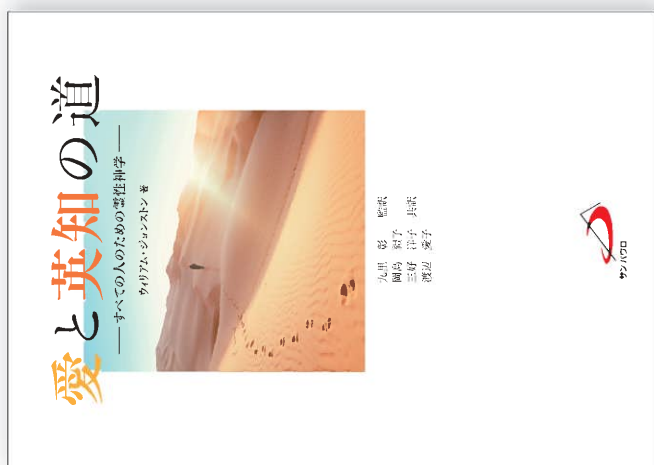
カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

愛と英知の道

——すべての人のための霊性神学——

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。

- 第一部 キリスト教の伝統
 - 第1章 智恵（1）
 - 第2章 智恵（2）
 - 第3章 理性対神秘主義
 - 第4章 神秘主義と愛
 - 第5章 東方のキリスト教
 - 第6章 愛を通して生まれる英知
- 第二部 対話
 - 第7章 科学と神秘神学
 - 第8章 修徳主義とアジア
 - 第9章 神秘主義と根源的なキリスト
 - 第10章 英知と（空）
- 第三部 現代の神秘的な旅
 - 第11章 信仰の旅
 - 第12章 浄化の道
 - 第13章 暗夜
 - 第14章 愛のうちに（る）
 - 第15章 花嫁と花婿
 - 第16章 一致
 - 第17章 英知
 - 第18章 活動
 - 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じられた。東洋の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。

書籍案内



生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



福者マリー＝ユジェーヌ神父に導かれて 十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価540円(税込)

【聖母文庫】 287

第2版
好評発売中!

マリー＝ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。([はじめに]より)



神と親しく生きる いのりの道

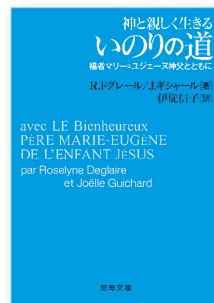
福者マリー＝ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャール 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 246

定価540円(税込) 209頁



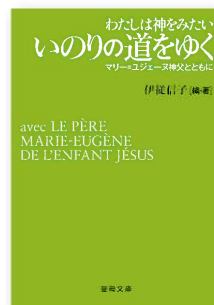
わたしは神をみたい いのりの道をゆく

マリー＝ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

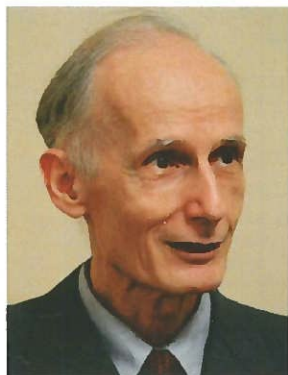
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 268

定価648円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院(黙想)**
(2025年5月～)

- ・聖書深読黙想会(土曜日18時～日曜日16時) カルメル会士

2025年

5月24日(土)～25日(日)

7月5日(土)～6日(日)

9月6日(土)～7日(日)

11月29日(土)～30日(日)

2026年

1月17日(土)～18日(日)

3月7日(土)～8日(日)

- ・奉獻生活者のための黙想会(初日18時～最終日朝食) カルメル会士

2025年 8月16日(土)～25日(月)

2025年 12月26日(金)～2026年 1月4日(日)

★教会の祈り(時課の祈り)を軸とした 黙想の場を提供いたします。

【ご利用に際して】

- ・介助やサポートなしで生活できる方。
- ・上記に抵触する方はお問合せ下さい。
- ・個人の場合はご家族・ご親族に、奉獻生活者の場合は長上にお申込者の状況をお伺いした上で、利用をご遠慮願う場合もありますのでご了承下さい。
- ・部屋は2・3階でエレベーターはありません。階段をサポートなしに
1人で昇り降りできない方はご利用いただけません。



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ（<http://www.carmel-monastery.jp>）なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール : mokusou_kmng@carmel-monastery.jp

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>



宇治カルメル会 黙想会案内 (2025 年 11 月～2026 年 3 月)

【一般のための黙想】1泊2日（土曜 午後5時～日曜午後4時）中川博道神父
5:30 サルヴェ・レジーナ（修道院）から開始

変更 ~~12/6—7~~→**12/20—21**
2026 年 1/31—2/1 3/7—8

【聖書深読】（土曜午前10時～午後4時）中川博道神父

11/29
2026 年 変更 ~~1/17~~→**2/7** 3/14

【水曜黙想会】（午前10時～午後4時）中川博道神父

12/17
2026 年 1/21 3/11

【カルメルの霊性】（土日）午後5時から 中川博道神父

十字架のヨハネ 12/13—14

【祈りの学校】 総合編（木）午前10時から 松田浩一神父

変更 ~~11/13~~→**11/20** 変更 ~~12/11~~→**12/4**

【カトリック信仰生活の学び舎】

《カテキズムに基づく》（火）午前10時から 松田浩一神父

11/11 12/2

【奉献生活者の黙想】（午後5時～午前9時）一般参加可

12月27日（土）夕食～1月5日（月）朝食 中川博道神父

2026 年
3月18日（水）夕食～27日（金）朝食 中川博道神父

ーその他皆さまが企画なさったグループ黙想会も歓迎いたしますー

☆お申し込みはEメール、FAX、はがきで

お名前と連絡先をご記入の上、お申込み下さい。

お電話は午前10時～午後4時の間にお願い致します。

受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、
お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。

またタオル類も準備してありますが、各自持参してもかまいません。

浴室にボディソープ・シャンプー等はございますが

浴衣やブラシ・歯ブラシ等はありませんので、各自でお持ちください。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

〈カルメル修道会日比野修道院、講座、黙想企画〉

【静修の集い】

2025 年 12 月 6 日（土）10：00～15：00

講話担当司祭：今泉健神父（カルメル修道会）

テーマ：聖テレーズ ―暗闇の中での信頼―

スケジュール：講話①、ご聖体顯示、昼食、
講話②、ミサ、茶話会

参加費 無料（自由献金をお願い致します）。
どなたでもご自由にご参加ください。

持ち物 昼食（各自持参）

問合せ 日比野修道院（052-671-1003）

場所：跣足カルメル修道会日比野修道院（カトリック日比野教会）

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

テーマ「希望の巡礼者」

「主の恵みの年を告げ知らせるために」

(ルカ4章19節)

毎月第2木曜日(10:00～15:00)

予約は前日の16:00まで

- 1月 9日 「聖年」とは－新しい始まりの希望：聖年を迎える
- 2月13日 「希望はわたしたちを欺くことはありません」－教皇フランシスコの呼びかけ
- 3月13日 「希望の巡礼者」－イエス様とともに歩む
- 4月10日 「希望」と信仰－希望はイエスのご復活に基づく信仰の実り
- 5月 8日 「希望」と愛－希望は神の愛に基づいています
- 6月12日 「希望」と愛の業－希望は愛の業によって現れる
- 7月10日 「希望」と祈り－希望は祈りによって養われる
- 8月 休み
- 9月11日 「希望」と平和－主は与えてくださる平和における希望
- 10月 9日 「希望」と福音宣教－世界に希望を届ける、教会の使命
- 11月13日 「希望」と神の国－神の国の到来を待ち望む
- 12月11日 「希望」と喜び－神の訪れはもたらす贈り物。

- ・ 個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦

1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

Tel:0968-85-3100

Fax:0968-85-3186



サダナ瞑想 †東洋の瞑想とキリスト者の祈り†

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の 8 日前まで

コース	日 時	指導	開催場所	申込み
広島 リピーターの会	2025 年 1/10(土)9:00～ 12日(月・祝) 16:00 ※通いも可能です	同上	広島市内施設	来間(くるま) 裕美子 ※ TEL: 090-5325-2518 *ショートメールは避けてください sadhana79878@gmail.com
フォローアップ	1/18(日) 9:30～17:00	同上	シャルトル聖パウロ 会 九段修道院 (千代田区九段北)	同上
名古屋ダイアリー	1/31(土)9:30～ 2/1(日)18:00 2/7(土)9:30～ 8(日)18:00 ※両方の週に継続 参加が必要	同上	聖霊会八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ) 暁子 TEL: 050-7108-7410 ngosdn@gmail.com
サダナⅡ	2/19(木)17:30～ 23(月・祝)16:00	同上	都内施設	来間(くるま) 裕美子※
サダナⅠ	3/19(木)17:30～ 22(日)16:00	同上	都内施設	同上

※ショートメールは避けてください。申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は 090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel & Fax : 042-325-7554

- 入門 C への参加=入門 A または入門 B を終えていること。
- フォローアップおよびリピーターへの参加=サダナⅠを終えていること。



祈りの集い

～沈黙の内に神を求めて～

「祈りの集い」の前半では、「祈りについての講話」をいたします。いままで、アビラの聖テレジアや十字架の聖ヨハネ、モーリス・ズンデルや聖書などをテキストとして使用してまいりましたが、今回は、ウィリアム・ジョンストン神父の著作『愛と英知の道 ――すべての人のための霊性神学』(2017年、サンパウロ社)を少しずつ読みながら、祈りについての理解を深めて行きたいと思います。

後半では、すべての存在(無機物から植物や動物や人間)を支えておられる、憐れみ深い神の前にありのままの自分を置き、祈りの内に神との交わりを深め、神の声に静かに耳を傾けて行きましょう。

場所: イグナチオ教会岐部ホール 404 号室

(JR・地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩 1 分)

次回の予定: 11 月 20 日(水) 13:30～15:30

2025 年度スケジュール

1 月 16 日、3 月 13 日、5 月 15 日、7 月 10 日、9 月 18 日、11 月 20 日

主催: 慈しみ深き会

指導: 九里 彰神父(カルメル修道会)

* 参加費無料(献金歓迎)

* 問い合わせ先: 042-473-6287 篠原(11:00～20:00)



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由にご自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

『靈性センターニュース』

* 郵送終了のお知らせ *

『カルメル靈性センターニュース』はWeb掲載移行に伴い、
冊子の発行を終了しております。

これまで月刊誌として郵送を行って参りましたが、今後は
Webにてご覧下さいます様、お願い致します。

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」(PDF)をクリック
過去のバックナンバーも揃って掲載しております。
どうぞご活用下さい。

また引き続きご献金もお願いしております。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

霊性センターニュース あとがき

お知らせ

『霊性センターニュース』へのアクセスを感謝いたします。
この度、3年近く拙誌の担当をしてきました志村武神父から換わって、中川神父が担当することとなりました。

教会は、21世紀の時のしるしを「霊性」と明言しています。わたしたちは神との新たな出会いに招かれています。そして、「御父の啓示者であり、世界の救い主であるキリストを信じる恵みを頂いたわたしたちは、魂の深いところで主との関係を持つことができることを示す義務があります」。皆様のご協力をいただきながら『霊性センターニュース』が、その義務を果たしていく上での一助となっていくことを心から願っています。

これからもよろしくお願いいたします。

(参照『新千年期の初めに』33)

中川博道 o. c. d.

